

循環要因	説明	具体例
<p>カジュアル エレガンス</p>	<p>厳密には[自由・束縛]と言う。ただ、ファッションに限定すると、[カジュアル・エレガンス]の方が分かりやすい。 自由を象徴するキーワードは、カジュアル、ドレスダウン、きたない、オキテ破り、何でもあり、非常識無礼講、偽悪的、崩れているなどがある。 束縛を象徴するキーワードは、エレガンス、ドレスアップ、きれい、権威主義、でなくちゃいけない、正統派、形式張る、偽善的、ちゃんとしているなどがある</p>	<p>初期のお兄系はホストのようなファッションでエレガンスアイテムのドレスダウンだから「中間」 後期のお兄系は、革ジャン、Tシャツ、ボロボロジーンズのギャル男だから「カジュアル」。 新訳「カラマゾフの兄弟」はドストエスキーが文豪なので、本来ならエレガンスだが、それを易しい訳文で翻訳したのだから「中間」。</p>
<p>超経験 常経験</p>	<p>超経験とは、非日常性の流行。派手好き、イベント好き変化を好む、パリコレのデザイン。 常経験とは、日常性の流行。地味が好き、平凡が好き、普段を大切にす、変化を嫌う、アンチファッション、リアルクローズ。</p>	<p>テレビドラマの原作がマンガだらけになるのは超経験、韓流ブームが超経験、 07年にDVDも発売された480万部のベストセラー「日本沈没」が「ありえねえー」だから超経験、「頭がいい人、悪い人の話し方」は自分やまわりの人を思い出してニヤッとするので常経験。</p>
<p>短文並列 長文直列</p>	<p>短文並列は箇条書きの流行。文章がプツプツ切れる。 長文直列はそれとは逆に長くつながる。</p>	<p>「カラマゾフの兄弟」は長編小説なので長文直列、「女性の品格」は箇条書きだから短文並列。 島田紳助や明石家さんまは、前後の脈絡のない話を機関銃のように撃つので短文並列。</p>
<p>対立視 同一視</p>	<p>自分と同じ服を着ている人を見てムカッとくるのが対立視。物事の違っている点に関心を持ち評価する。物事のわずかな違いを気にする、デザインも性能も妥協できない、商品に鮮度を求める、他人と違うものを欲しがると、少ないことに魅力を感じる。 自分と同じ服を着ている人を見てニコニコしているのが同一視。物事の共通点に関心を持ち、評価する。物事の細かい違いは気にしない、商品と他の条件をてんびんにかける、他人と同じ物を欲しがると、大量に同じものがあると買いたくなる。</p>	<p>内釜がカーボンの炊飯器「木炭釜」は、少しの違いで3倍の価格だから対立視。 高画素数デジカメは、特別面白い機能がついているわけではないのに高価格だから対立視。 本格芋焼酎は、手に入りにくいことで人気になったから対立視。 何にでもランク付けしたり、格差を論じたりすることがブームになったが、違いに関心があるのだから対立視</p>

